高齢者の豊かな生活のために　　２０２１年８月１日発行

手 賀 沼 通 信（第２８１号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

手賀沼通信読者で、我孫子の文化を守る会会長の美崎大洋氏から投稿をいただきました。ありがとうございました。

嘉納治五郎氏の銅像を建立するまでの苦心談がまとめられています。

特別寄稿

嘉納治五郎銅像が出来るまで

我孫子の文化を守る会会長　美崎　大洋

物事が予定通り進み予定の結果が得られると人間はその間に味わった辛い思いや悩みや苦しみを忘れるものらしい。

嘉納治五郎の銅像がほぼ予定通りに治五郎別荘跡に建立されたのは令和２年４月１５日であった。新型コロナ感染拡大が進む中、除幕式は勿論、仲間と一緒に完成を祝う会すら持てない状況に残念な思いで歯ぎしりはしたものの、一方で目的を達成した満足感は残念な気持ちを凌ぐ十分なものがありました。

建立プロジェクトの経過をここで改めて振り返り、今まで表には出せない事実、裏ばなしを披露してみたいと思います。

「我孫子の文化を守る会」の元会長である三谷和夫氏が銅像建立の話を持ってきたのは平成２９年夏の頃でした。当会の創立４０周年という節目の年に何かイベントをと考えていた状況で嘉納治五郎銅像建立の話を持ってきたのだった。背景にその年に東京オリンピック（註）が開かれる予定であったこと。また、我孫子市が市制に移行して丁度５０年となる（これについては私は知らなかった）年であることもあった。唐突な話ではあったが、別に反対する理由や材料もなく、「いいじゃないですか。やりましょう」と返事した記憶がある。

（註）１９４０年に開催予定だった東京オリンピックはアジアで初めて開催される予定のオリンピックで、その誘致はこれまたアジアで初めてIOC委員になった嘉納治五郎の貢献によるものだった。しかし日中戦争の影響で返上、開催に至らなかったことから「幻の東京オリピック」と呼ばれる）

しかし暫くして冷静になって考えると「これは大変なことをすることになるかも知れない」と思うようになった。当会では過去に我孫子駅前に「飯泉喜雄顕彰碑」を設置したことがあり。その時の経験から寄附金を募り、集めることの困難さを知っている。その時、集まった寄附金は３３０万円余、今回はその何倍にもなることが予想される。さらに飯泉喜雄顕彰碑の際、問題となったことのひとつに設置場所の問題があった。我孫子駅周辺は我孫子市所有の土地とＪＲ所有の土地、さらに一般の方の土地もある。どこに建てるか、また所有者の許可が得られるかという課題である。もうひとつの課題はこのプロジェクトを誰がどういう形態で主導するかである。前回はいくつかの市民活動団体が共同で行った。

第一の課題、場所の問題については候補地として我孫子駅前と治五郎別荘跡のふたつがあったが、やはり実際に治五郎師範が住んだ別荘跡地がいいだろうと考えた。この地は現在「天神山緑地」として我孫子市が管理する土地である。当会が普段接触している教育委員会・文化スポーツ課を通して星野市長に面会を申し入れた。市長との面会の機会が取れ、当方は三谷氏と私で面談した。銅像の建立場所に天神山緑地の一部お借りしたい旨のお願いは即座にOKとなった。あまりに早い決断と許可に少し拍子抜けの感さえあった。財政的に必ずしも余裕があると言えない我孫子市としては市民が自主的（勝手に）に資金を集めてくれ、市としては土地を提供するだけで資金負担はないという案件だけに問題なしと考えたのであろう。

後日星野市長にお会いした際、土地の使用許可について「市議会にかけなくて良かったのですか？」とお聞きしたら、こういう類（たぐい）の案件は市長に決裁権があるとの話であった。また

その時は知らなかったが、毎年１０月末頃に講道館が治五郎師範の生誕祭を行っており、我孫子市のスポーツ課では数年前から生誕祭の展示などに協力していたようだ。講道館からはいずれ共同でイベントをやりたいとスポーツ課へ要請もあったと聞く。我孫子市としては我々の要請は予期せぬことはいえ、「(嘉納治五郎関係の話は）待ってました」というタイミングだったのかも知れない。市長との面会の手配といい土地の使用許可（事前に我々の要請の話は市長の耳に入れていただろう）といい、話がトントンと運んだ裏には、偶然とはいえ、そういう事情があったということだ。プロジェクトスタート前としては全く幸運とも言えるタイミングであった。市長との面会でも「銅像建立には会員からの賛成を貰うことが不可欠」と念を押された。当然のことであり、明けて平成３０年１月７日に臨時総会を開くことになり、全会員に総会開催の案内と銅像建立についての議案の賛否を提示し、総会の参加を要請した。事前の集計で結果は賛成６２名、反対３名、未回答（返信なし）３４名だった。

１月７日当日の総会では改めて議案「銅像建立」について賛否を求めたところ、満場一致で原案を可決承認した。参考までに当日欠席した反対者の意見「建立するなら顕彰碑の方が適切」「市教育委員会の説明板で十分。別荘があっただけで何か我孫子のために大きな貢献をした訳ではない」を参加者に披露した。

もう一つの課題、誰がどのようにこのプロジェクトを主導するかである。前回の飯泉顕彰碑の際はいくつかの市民団体が共同で行ったため、寄附金の募集については各団体が自主的に活動し、それなりの成果はあったものの、一方でひとつのことを決めるのにその都度すべての団体の同意を得る必要があり、手間と時間もかかったという反省から、今回は当会が主導し、他の市民活動団体には協力を求めるということにした。役員会では「我が会だけでやるのは何か出し抜いた形となるので、他の団体が快く協力してくれないのではないか？」と心配する意見もあったが、実際に後援、協力団体としての協力をお願いしたところ、１２の会、団体が快諾してくれた。

募金活動開始

銅像建立の根幹となる寄附金募集については、配布用の「ちらし」に以下の内容を記載し印刷した。

概要は以下の通り。

・募金の目標額　９００万円
・募集期間　　平成３０年４月～平成３１年９月
・募金の金額　　１口１０００円以上
・振込口座（銀行名）　郵便局、京葉銀行、千葉銀行、千葉興業銀行

（銅像本体の費用は６００万円だが、台座の費用として２００万円、予備費１００万円とした）

我孫子市と嘉納治五郎の関係については治五郎が別荘を持っていたことから「別荘跡地」としての観光スポットもあり、我孫子市民は多少の関心や知識があると思っていた。私の試算（皮算用）では仮に我孫子市民約１３万人のうち、５％の６５００人が、１，０００円ずつ寄附してくれれば６５０万円が集まるとしていた。ところが、実際に駅前に立って募金箱を持ちながら寄附を募ってもあまり関心を寄せてくれない。人によっては「ちらし」さえ受け取ってくれない現実を経験した。募金の集め方には駅前での呼びかけや、嘉納治五郎関係の講演会、展示会の会場に募金箱を置いたりしての比較的大人しい自然に任せる方法を取った。「我孫子の文化を守る会」の会員に対しても「寄附を強要したり、強制するものではない。趣旨を理解し納得して余裕があればお願いしたい」と会報に掲載した。

当初の計画では約１年半程度で目標額が集まるのではないかと想定したが、実際には思った通りには集まらず、スタートしてから約１年後の令和元年５月の状態では目標額の４割程度であった。尤も最終責任者の私としては「最後は自分で足りない分を出せばいいや」と腹をくくっていたこともあり、金額についてはそれ程心配していなかった。

ところで今回建立しようと考えていた銅像は文化勲章を受章した朝倉文夫の作品で、石膏による原型が残っていたので、我々の手の届く範囲の金額であったが、これを最初から造ろうとしたら何千万もかかっただろう。既に同じ銅像は、教育大（旧）、講道館、筑波大、灘高、品川区役所に現存し、今回の物が６体目になる（今まで全部で７体造られたが最初の１体目は戦争中に供出された）。

募金活動情報は「ちらし」や口コミのお蔭で徐々

に周辺に広まり当初の予定期間を過ぎた頃からピッチが上がり、令和元年が終わる頃にはほぼ目標額に近づいた。

寄附者の銘記

当初から台座に寄附者のお名前を記載することは考えていたが、台座の石に直接刻むのは人数が多く、字も小さくなることから無理であることは分かっていた。そこで台座に名前を銘記した金属板を嵌め込むことにした。通常、神社などに残る記念碑やお祭りで張り出される寄附者の一覧は殆どが寄附金額の高い順に金額と共に名前を記載するものであるが、これは如何にも人間の欲望や見得をむき出しにしたようで私としては嫌だった。「へそ曲がり」と思われそうだが「何故金額が高い順なのだろう？」と前から思っていたこともあり、今回は金額に関係なく「あいうえお順」にしようと個人的には考えていた。役員会でその考えを提案すると案の定、反対意見が出た。私に忖度して反対意見を言わなかった人もいただろうが、数人が「それはおかしい。１００万円出した人と１０００円の人と何故同じなの？」という意見である。これに対し私は「１００万円出す人も１０００円の人も今回の計画に協力しようと思う気持ち・熱意に変わりはない。１０００円出す人だって例えば１０００円にするか２０００円にするかを家族間で悩んだかも知れない。一方、１００万円の人はお金が余っていて使い道のないお金かも知れない。また「あいうえお順」の方が自分の名前を探しやすい」と若干強引な論理で説得しようとした。

会長として「あいうえお順」の案を強引に進めることも出来ないことはなかったが、ここは一旦引いて妥協点を探ることにした。うまい具合に妥協案を出してくれる役員がいて「ある金額の範囲でブロックを作り、そのブロック内で「あいうえお順」にしたら」と提案した。金額のブロック（範囲）を４つに分けることにした。民主的に決めることも大事な事であることから、①「あいうえお順」にする②金額順にする③ブロック内で「あいうえお順」にする、の３案で投票した。結果③の案が多数となり、決定した。

私はさらにブロック間の異動を可能にする案を提案した。例えば個人の希望で第一ブロック（高いブロック）から第４ブロック（低い）には移ることが出来る。勿論低い方から高いブロックへの異動はダメということである。個人がいくら寄附したかは明示しないから誰がいくら出したか、同じブロックでは誰が誰より多く出したかは分からないようにした。寄附というものはそういう趣旨のものではないかと考えたからである。実際問題として街頭や講演会で寄附をしてくれた人で「お名前を？」とお願いしても「結構です」と去って行った人がいたこともあり、寄附の本質を改めて教えて貰った気がしたのも事実。逆に条件を提示して「条件を呑んでくれたらいくらいくら出す」という売名行為に近い提案をする人もいたが、そういう提案にはこちらからお断りした。

今まで偉そうなことを述べたが、計画が予定通りにいったから言えることで、今回の計画実現はすべて我孫子市を始め市民を中心に多くの人のお蔭です。寄附をしてくれた方は勿論のこと、陰に陽に励ましとご協力を賜った多くの方に改めてお礼を申し上げます。

今後この銅像が我孫子市の新たな観光の目玉になれば大変嬉しいし、我孫子と治五郎の関係を知らなかった市民もこの銅像が何故天神山緑地にあるのかということに関心を持つことで我孫子市と嘉納治五郎の深い関係を知ることになればこれに勝る喜びはありません。

記念誌には台座に嵌めこんだ寄附を賜った方を銘記した銘板と同じものをカラーで掲載してますのでご確認ください。

（新田注：記念誌は次の手賀沼通信ブログ抜粋をご覧ください）

３３１ページにも及ぶ大作です。副題にもあるように、嘉納治五郎氏の我孫子とのかかわりと銅像建設に至るまでの詳細が内容となっています。

友人は我孫子の文化を守る会の会長を務めています。

嘉納治五郎の銅像は、２年の準備期間をかけて昨年の令和２年４月に嘉納治五郎の別荘があった跡地に建立されました。華々しく除幕式が行われる予定でしたが、新型コロナウィルスの感染が拡大していたため急遽取りやめとなりました。４月１５日にささやかなお披露目が行われました。

手賀沼通信ブログ抜粋

友人が「我孫子の文化四十年の歩み」を出版した（ＮＯ．１４８８）（令和３年７月１０日）

令和３年７月７日友人から「我孫子の文化四十年の歩み」－嘉納治五郎銅像建立記念特集－が送られてきました。

銅像は筑波大学や講道館にある銅像と同じく、彫刻家の朝倉文夫氏が嘉納治五郎の喜寿を祝して作成した原型が用いられています。見事な銅像です。

なお「我孫子の文化四十年の歩み」を入手されたい方は下記までご連絡ください。定価１２００円ですが、今回は１０００円です。

連絡先は

美崎 大洋　我孫子の文化を守る会会長

電話：04－7182－0861

メール：mss_misaki@yahoo.co.jp

です。